

## 米沢市新文化複合施設基本設計案市民検討会 会議録

- 1 日 時 平成24年11月29日（木）19時00分～21時15分
- 2 場 所 伝国の杜2階 大会議室
- 3 参加者 65名
- 4 説明者 設計者 株式会社山下設計担当者  
事務局 米沢市教育委員会教育管理部長、総合政策課長、建築住宅課長、文化課長 他

### 5 次 第

- (1) 開会
- (2) あいさつ 教育委員会教育管理部長
- (3) 基本設計(平面プラン案)の説明 株式会社山下設計担当者
- (4) 意見交換 下記要旨のとおり
- (5) 閉会

### 6 意見交換要旨

参加者／ 最初にこの会のことについてお伺いします。先ほど司会者から午後8時半をめぐりとお話しがありましたが、今米沢では注目というか注視というか議論されているものであります。この意見交換会、検討会が、どのくらい盛り上がるか分かりませんが、時間を切るべきではないと、議論が出る出ないでは朝までも構わないので継続するべきだと私は思いますがいかがでしょうか。あくまでも8時半で切るというような、意見があってもそうするつもりなのでしょうか。

事務局／ ある程度お時間のほうは少し余裕があると思いますが、限られた時間の中で出来るだけ多くの意見を集約させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

参加者／ 組織的にある程度めどをしておかないと、だらだらしてしまっても困ると思いますが、まずここに集まっている方は、非常に時間を割いて集まっている方なので、おそらく質問やら意見を言いたい方がいっぱいいらっしゃると思いますので、是非限りなく多くの提案をして頂きたいと思ひます。次に二つ目ですが、今日は市民検討会ということですね。検討会ということですので、ここにいる方々で検討して出た内容について活かすというふうな趣旨だと捉えておりますが、単なるお披露目会ではないので、出た意見についてはどういうふうにして、どういう方法で意見が活かされていくのかと、そういうようなことをお聞きしたいと思ひます。その方法、担保についてもお聞きしたい。

事務局／ 非常に重要な位置付けをいたしておきまして、頂いた御意見を十分参考にさせて頂きまして、市当局側と設計業者とで、よく検討させて頂きたいと思ひます。それを基本設計の中で反映出来るものは反映をします。更に、もう少し細かいところであれば、実施設計の中で更に検討を重ねていくというような形で進めていきたいと思ひています。

参加者／ 大変分かりやすいお答えだったのですが、申し訳ないが正直中身が無いというふうに思います。というのは、まず議事録を録っておられるのですか。記録はどうなっていますか。

事務局／ 議事録は録っております。

参加者／ これは市民に公開されますか全てが。

事務局／ 市ホームページで公開する予定です。

参加者／ それは生のままですか、それとも、かいつまんで、何と言いますか少し人の気持ち加わってなるんでしょうか。

事務局／ 一言一句拾う形ではなく、ある程度長いものにつきましては、要約させていただく要点になります。

参加者／ まあ現実的にはそうだと思いますが、一言一句という訳ではありませんが、まず記録を録っておくということが大事ですよ。それと市民に公開するということが大事なんです。ただ、今現在の安部三十郎市長は、比較的市民には情報をオープンに提供しないというので、自分と考えが違う考えでも公開されるということなので、そこら辺はまず大丈夫かなというふうに思いますが、そこに意図的なものがおそらく入らないだろうと信じておりますが、公開していただきたいと思えます。それと、仮にこの場で大方の一致で外壁を木は駄目だと、セメントにしなさいと、例えばですよ、なったならば普通に検討はいくらでも出来ると思えますが、基本設計に合わないとか、予算が無いとか、時間が無いとかでボツ、ボツ、ボツというふうに誘導されてというか、そうなるような気がしないでもないですね。ただし、その結果、一度聞きました一応やりましたよと、意見を聞きましたよ、というふうにご利用されるのではないかと、ちょっと心配をしております。特に図書館の基本的な考え方というときにですね、市長はアンケートを取ったというふうになっていると思えますが、どうも大分意図的な偏ったアンケートで、それを発信、大勢のような何か報道では聞いていますが、そんなやり方をしたのは、この会の意義が無いと思うんですよ。そのようなことから、この会をしっかりと一言一句とは言いませんが、記録をして公開をして、一つ一つその意見が出来るなら出来る、駄目ならそれが駄目だと、それに至った理由、根拠、それを明確にしておくことをしなければ納得できないと思えますね。これが非常に確かにですね、米沢の私たちの文化や芸術を発展させるときに大きな意味が来ると思いますが、ただ、私が思っているのは、中心市街地の賑わいという大きなテーマの中で来ているのに、賑わいをするとはとても思えないですね。賑わいの定義付けがなっていないので、ただ単純に今現在よりも人が集まると、それは賑わいだと言ってしまえば、それはそれで賑わいなのかもしれませんが、ただ、常識的にですね、私たちの税金を使ってやっているわけなので、私のお金ですとするならば、それなりの費用対効果が明許でなければならぬし、そこまで達成しなかったら失敗なら施策をですね、結果的には私たちが負担をするわけなので、まあそういう意味からも、駄目なら駄目で根拠を明確にして報告してもらいたい。この検討会を意義あるものにしたいというふうに思いますので、その基本的考え、

私が今お願いした件など出せるのかをお聞きしたいと思います。

事務局／ 先ほども申し上げましたとおり、ものすごく大事な会議だという検討会だと考えております。十分咀嚼して検討させて頂き、もちろん傾聴すべき点は採り入れ、先ほどおっしゃいましたけれども、実現不可能なものについては、意味を付して御説明したいと思います。

参加者／ 私ばかり話しても何か恐縮なんですけど、基本的なことでお聞きします。あの図書館を造るということとか、ギャラリーを造るということについては、私は非常に米沢市の文化を向上させるために良いことだと思いますが、賑わいを創る、再生するとか創造するとかについて、ほとんど繋がらないと思います。なぜならば、あの場所は、文化ゾーンではなくて、商業施設とか飲食店とか、そういうことのゾーンだからです。それに全然異質なものを造ることは、かえってマイナスだと思っているんですね。ただ、やるのならやるで、そういうのを無駄にしないで、賑わいということは人を集める、一言で言えば集めるということです。それも静的なものではなくて動的なものだと思います。したがって、この会場を使ってイベントをいっぱいやれるようなものにすべきだと思います。それでギャラリーですね。さっきあの何か壁がありましたので、あの壁はイベントのとき障害になると思います。小さいスペース空間を造るのいいんですけども、人をいっぱい集めて何かするには、あの壁は邪魔だと思うんですね。だから基本的なものに合わないの、おそらく物理的には不可能かなと思うんですけど、そういう点について、これをいかにして利用して賑わう、創造して再生していくことについての基本的なお考えを伺いたいと思います。

設計者／ 私の方からは、賑わいを中心市街地に賑わいを生み出すというのは、非常に難しい課題だというのは、私も同じように認識をしています。建物を一つ建てたからといって賑わいをですね生み出されるわけではないというのは、それは当然の話ではないかと思います。ただ最近のですね大きな流れの中であることを一つ申し上げたいと思いますが、新しい図書館は本体が開架で15万冊というような規模を想定されているんですけども、かなり大きな開架冊数を持つ図書館を造ると人がたくさん集まるといえるのは、これは事実としてあります。今回、じゃあどのくらい年間集まるのかというのは、オープンしないと分からないというのはありますけれども、周りの状況をいろいろな日本全国の自治体の状況を見てみると、50万人とか60万人もの利用者がこの図書館に集まるといえるのは、そんなに外れていないような数字なんですね。それだけの人がそこに集まるといえるのは、そんなに人の流れが変わることなんです。それは、まず確実に出来るんです。その中で、あと何が必要なのかということ、やはり皆さんがそれをうまく活かして考えていく。自分のまちの中で何かを仕掛けていくようなことがしっかりですねもし出来るとすれば、それは賑わいに繋がるんじゃないかなと思っています。そういうことを考えて図書館は2階に上げてですね、いろいろな使い方が出来るギャラリーというものを下に配置をしたと。今、壁柱があるのが邪魔だというふうに申されましたけれども、かなり大きな空間が中に確保されています。構造的に合理

性を増して、よりローコストに機能性の高いものに造るという視点も非常に大事なことでございますし、それから、たとえば美術館というのは壁があるものなんです。そういう壁というのは、いろいろな展示も出来ますし、いろいろな活動のきっかけにもなる場所なんです。だから、そういうものをうまく配置をしながらその枠の中で工夫をして、例えば週末にコンサートをするとかですね、ブックカフェというような機能を考えていますけれども、例えば、皆さんが運営をして、用事がない人もお茶を飲みに来られるようにするだとか、そんな、いろいろな工夫をしていければですね、賑わいが生まれるんじゃないかなというふうに考えています。

参加者／ 良く分かりました。今お答えになった中にですね、コンサートをするという言葉が出てきましたけれども、実はそこを考えているんですよ。今までのギャラリーには、はっきり言ってポポロにあったギャラリーは非常に利用者の人数が低迷していましたよね。数字に出ていると思います。1日平均するとほとんど少ない。要は今までの展示、展示は大事ですよ。必要でいらぬとは全然言っていません。私たちの子供たちの絵を展示したりとかですね、書道展をしたりとかね、いろんなその人によっては人が来るとは思いますが、現実的には、ほとんど人数は低迷しておりました。パラパラとして寂しい限りでした。それをここに持ってきたときに、今までと同じような利用の仕方では絶対同じで、場所が変わったって変わらないですね。賑わいを目的とするならば、今までの展示だけでは不足だと思うんです。そこにそれらは必要だと思いますが、それに甘えないで、コンサートとかですね、例えば物をですね特別な専門的な物をいっぱい集めて、そこでマーケットをやるとか販売するとか、いろいろな考えできると思います。どなたか議員さんがFMのミニ局のスタジオを作るというのをちょっと見たことがあります、利用の仕方によってはいろいろ可能性はあると思います。賑わいをするためには、むしろ設計者さんはいろいろな可能性を出来るような、例えばネットとかケーブルとか照明とかステージとかPAとか駐車場とか飲食とかですね、そういう可能性を作って頂きたいという、これからおそらく30年40年使っていくと思いますので、途中の改装も含めて柔軟なものを造って頂きたいです。問題は、それを利用する市当局だと思うんですね。頭の固いやり方では駄目ですので市当局の方、ただ、この文書の中に専門家というものがありましたけれども、おそらく専門家はいないと思うんですね。やはり市民の力を借りて、いかに多くのものをここでやるか、ギャラリーと言いながらも実際にはここはイベント会場なんだと。そういうふうなことも利かしてしないと活性化が望めないと思います。

参加者／ あまりにも一人の話が長すぎる。

参加者／ 申し訳ない。だから時間を延ばしてほしいと言ったんです。すみません。取りあえずここで切りますが、他の方の御意見もお願いします。

参加者／ 今、御意見があった訳ですが、私としては山下設計さんからお話しがあったように、開架15万冊、今、市立図書館が24万冊ぐらゐの蔵書がありますが、開架率が非常に低いということで、これが大幅に改善されて、本の夢のような空間

が出来るということで、この基本設計は非常にありがたい設計だと思っております。かつ、賑わいの話がありましたけれども、いろいろな図書館を視察させて頂いて、最近会津の図書館に視察に行ったんですが、会津を見ると大体今まで25万人くらいだったところが、新図書館が米沢とほぼ同じくらいの面積の図書館ですが、年間利用者数が倍くらいに、昨年オープンしたばかりですけれども倍になっている。白河でも大体1.8倍くらいになっているということで、私個人としては、同じように新図書館が出来ることによって間違いなく人がこの図書館を、或いはギャラリーを誘導して頂けると。あとは本当の目的である市の中心市街地の活性化については、この議論とはまた別に、いろいろな商店街なり商工関係者の方々、地域の方々はどういうふうにこの施設を活用していくかということ、是非検討をして頂きたいと思います。まだ2年間あるわけですので、その検討をお願いしたいなと思います。それが図書館、それから実際の詳細設計が出来る中で運用が決まっていく中で、どう図書館と連携していくのかも含めて議論をして頂ければと思います。細かいところに入りますが何点かあります。開架が15万冊というお話だったんですが、全体の想定で当然図書館というのは発展していかないといけない。次々に本が増えていく。トータルでキャパシティとしていくぐらいの収蔵、開架を含めてですねキャパを想定しておられるのかというのが一点。それから二点目は、併設の駐車場の1台当たりの縦、横と大体の収容台数、その考え方が二点目。こまやの幅はどれくらい幅があるのか。あともう一つ、これは詳細設計の方で議論をして頂くことになると思うんですが、最近の図書館は、やはりいろいろな形で図書購入費が厳しいという面もあって、市民の方から様々な貴重な、或いはまだまだ新しい本など、そういったものの寄贈を受けて活用できるものは市の図書館の収蔵として登録をして頂く、或いはこれは市の図書館に収蔵してあるので、市としては必要ないけれども、せっかく寄贈頂いたので是非市民の皆さんにリユースして頂きたいというような取組みをしているところも結構あると聞いています。そういった意味では、是非そのどこにスペースを作るかは別として、たくさん市民の方がですね寄贈頂いて、収蔵できないものは市民にリユースをするという、そういうスペースを作りたいなと思います。それから最後の三点目、ギャラリーにあるブックカフェのコンセプトについては御説明頂いて理解しましたけれども、非常にフレキシブルな使い方が出来るという反面、逆に非常に中途半端な部分もあると。例えばブックカフェをやる以上は、その運営が第三者に委託されるのか、或いは直営というのは有り得ないわけですから、外部の業者さんをお願いするわけですので、そういった面を考えると、ある程度どこかのところでフィックスしておかないと、当然パントリーの問題とか、そういったところで実際運用していくとこんなはずではなかったというようなことも起こり得るのではないかという意味で、ある程度カフェについては考え方としてはどこかにフィックスをして頂きたいかなと思います。

設計者／ まず、蔵書冊数なんです開架15万冊と、それから閉架はBMだとか貴重書庫も含めてでございますが基本的には15万冊というのが要求条件でございます。

その中で、多少工夫をしておりますので、これから何段の書架を選ぶのかという、これは閉架書架の話ですけれども、そういうことで少し変わってくるとは思いますが、それから集密を使って増やしていくということもあると思うんですが、20万冊プラス15万冊で35万冊を超えるようなくらいまで持って行かれるようなスペースは確保いたしております。次は駐車場スペースですが、施設北側の文化会館との間のスペースは管理用の駐車場と身障者用の駐車場3台を確保しています。身障者用の駐車場については、幅が3.5mで奥行きが6mという形で確保しています。一般の駐車場につきましては、図面右上の別敷地に確保いたしております。幅は2.4mで奥行きが5mになっております。それから次がですね、こまやの幅ということですよ。約3mを超えるくらいで、そこから外側に2m程度庇が出ているという形になっておりますので、ガラス面から5mくらいはカバーされていることになります。それから、ブックカフェについては、これはどういうふうに運営していくのかというところで関わってくるとは思いますので、そこら辺の話をですね考え方をですね詰めていきたいと思っております。

事務局／ 本のリユースについては私どもも考えておまして、これから運用の中で詰めていきたいというふうに思います。今ほどのブックカフェについても、先ほどの意見にもありましたけれども、ギャラリーをどういうふうに柔軟に使っていかれるかということと連動いたしますので今後詰めていきたいと思っております。

参加者／ 新しい図書館が出来ることをすごく期待しています。新しい図書館を見るとどうなるのか私なりに想像してみました。まず、これくらい大きい図書館になると、おそらく利用者はちょっと想像がつかないくらい増えるだろうと思っておりますし、そう期待もしております。図書館の場合は、必ず移転したばかりではなくリピーターになる可能性が高いので、いろいろ老若男女が何べんも何人も出入りするようになりますし、このゾーンに高校生が全然来なくなっている現在は、図書館を通じて相当高校生も集まって来るんじゃないかと思って期待しておりますので、よろしくお願ひします。図面を見てみますと、ここで働く職員の方々が休憩したいとか、そういう場所、部屋が足りないではないかという感じでおりました。そして多分この図書館にはボランティアでお仕事にいらっしゃる方も結構出てくるだろうと私は想像します。他の図書館へ行って結構そういうお手伝いの方が相当数いらっしゃるところを目撃してきましたので、そういった方に対する部屋も考慮してあげなくてはいけないというふうに思いました。これを見ると休憩室が一つしかなくて、ここで働く人が非常に大変じゃないかなというふうに思います。それから新聞を見る所を随分広く取ってあって大変結構なんですけれども、誰もいなくなるとこのゾーンがもったいなくなるとは思いますので、勝手な言い方かもしれませんが、1階のギャラリーの方に新聞を自由に見られるようなスペースを作って頂けないかなと感じました。新聞は自由に来て見て頂いて差し支えないものなので、そういうふうにした方がコーヒーショップもすぐ脇にあるみたいだし、いいんじゃないかと思いましたが、いかがでしょうか。

事務局／ 図面を見て頂いて分かるように、限られたスペースの中でやり繰りをしており

ますので、職員に対する御配慮は非常にありがたいのですが、ボランティアさんも含めまして基本的には協働していこうというスタンスでおります。まだ運営形態をどのようにするか、管理体制をどのようにするかということは、これから詳細を詰めてまいりますので、こういった形で職員が配置されるかということも、今はまだ確約したことを申し上げられませんが、ボランティアの方も含めて皆さんでこの図書館、ギャラリーを運営していきましようというようなスタンスで管理を考えております。スペースにつきましても、今、事務室とあるスペースを最大限有効に使って良いものになるようにしていきたいと考えております。それから、新聞を読むスペースについては、ギャラリーのブックカフェと連動する話になると思います。可能であればですけども、是非そういう形も取っていただければと考えておりますので、その辺は検討させていただきたいと思います。

設計者／ 少し補足させていただきますが、2階事務室の休憩室と書いてある部分ですけども、この壁というのは動かすことが出来るような、工事費は掛かりますがそういった形を考えています。構造体ではなくて、これからの使い方の中でもっと広くしていく。そういうことは検討出来ると思います。図書館の人は昼休みとかでも働いていないといけませんし、そういった意味で休憩できる場所を充実させていくというのは非常に重要なことだと思いますので考えていきたいと思えますし、限られた面積の中でやっておりますので、事務室の中のスペースとの兼ね合いというものもあるかもしれませんが、工夫している事例であれば、今回採用するかどうかはいろいろ問題があるので全然別な話だと思いますが、例えば自分の席は持たないで、荷物を収納出来る場所だけを持っていて、空いている席に座るクリアブルと言うんですけれども、そういった使い方をすることによって、中を効率的に使うことをやっている図書館もあります。いろいろなことのメリット、デメリットがありますので、今後検討していきながら、より働きやすい、ボランティアの方も参加しやすいような環境を作っていこうと思っています。

参加者／ 二つほどお聞きしたいと思います。まず図面を見せて頂きまして、まず感じたことはですね、一つはこれだけ大きな図書館の割には無料の駐車場スペースがどれだけ取れるのか、人を集めるには、今、駐車場の図面を見たんですが、別になっておりますから、ちょっとこれでは大変ではないかなということが一つと、それともう一つはですね、私も国立図書館が大好きで、いろいろ行って来たんですけども、ここの建設計画においてですね地下が全然使われていないですね。関西国立図書館の中では、半地下になっていてですね、書物の空調関係がやりやすくなるようになっていたんですが、設計者としてそれが無理だったのか、または今こういう形の方がベターなのか、その辺を一つお願いします。あと、二つ目はですね、ずっと設計屋さんとは関係なくなるかもしれませんが、ここの会場の御案内にですね8月に図書館建設が決まりましたという御案内がありましたけれども、確かに8月にですね補正予算で設計と地質調査の費用は出ましたけれども、実際にこれを建てるとなると、いろいろなハードルがあると思うんですね。例えば、ここのまちの広場においては、ここは都市公園ではないですけども、

一応条例がありまして、それをまず撤去しなきゃならないハードルの一つでございます。それとまた全体の金額が我々にまだ示されておりませんので、その時に3月で議決した場合に、それじゃ負担が多いんじゃないのということで、駄目になる可能性もある、そういう不可解な問題を抱えながらですね、広報では決まった、決まったというふうにとにかく事実的な討論会もどきというのを進めているということは、非常に一般市民としては不可解なんですけれども、設計屋さんとは別にですね、もし、ここで答えられる範囲であれば、是非お聞かせ頂きたい。これが、今の非常に市民の中でいろいろの問題、話題になっている要因だと思いますから、いい機会ですから、行政の方きちっと御説明をお願いします。

設計者／ まず駐車場なんですけど、この平面図に出ている敷地と離れた文化会館東側に駐車場棟というのが配置図に入っているのを見て頂きたいのですが、駐車場棟というものを造っております。

参加者／ 無料ですか、有料ですか。

設計者／ 無料、有料については私どもが決める話ではないので。台数としては、150台程度の立体駐車場は確保されているということになっています。それから、地下を使っていないということなんですけど、主な理由は、地下を造ると工事費が地上に造るより3倍ぐらい掛かるからというのがありまして、そういったことと、それから、地下に造った場合に採光が取れない、それから、保存するときに熱環境は非常に良いということは認識してはありますが、もう一つデメリットとしては、水損の恐れがあるとかですね、そういったデメリットもございます。そういうことを考えて、一番大きいのは、工事費が高いというのが一番大きいとは思いますが、今のこの計画は、なるべく合理的に、たくさんの費用を掛けなくても大きな骨格が造れるような、そういった設計をすることによって少ない予算でなるべく性能の高いものを造っていききたいというものを基本的な姿勢として提案しているつもりでございます。

参加者／ ありがとうございます。是非ですね3階の方にですね貴重書庫というものを用意されているわけなんですけれども、やはり非常に天日に晒されやすい場所であると思いますので、その辺をしっかりと子々孫々まで守れるような設計をよろしくをお願いします。

事務局／ 駐車場につきましては、現在検討中でございます。以前の検討会でも御質問が出ましてお答えしておりますとおり、時間を区切って無料化を図っていこうというつもりでおりますので、何時間まで無料になるかということは、今検討させていただいているところです。

参加者／ 山形で、有料駐車場図書館に行く馬鹿な話ないよ。2番目の質問は答えられないの。もう1回説明しようか。

事務局／ 私の方から今後の予定について、ただ今御質問というか御意見があったとおりの8月の臨時会で議会の方に議決を頂きましたのは設計費に係るものということで、おっしゃったとおりでございます。今後につきましては、当然のことながらまちの広場に建てますので、そちらの条例の廃止というものが必要になってきま



すし、新年度に向けて、その予算を上程させて頂くという大きなそちらの方が挙がっているということで、本日のこの過程としては、皆様から御意見を頂戴いたしまして、その案と共に議会の方に、ただ今申し上げました議案等を提出させて頂くというような進み方になるということで、御理解頂きたいと思います。

参加者／ 二、三お尋ねしたいと思います。大分以前の案から見て大変検討を重ねられて、なかなか良い提案だというふうに思っておりましたが、ギャラリーの壁につきましていろいろ変更が自由だというような内容ですね。この図面を見させて頂いて、体験学習室の壁が外れれば、或いはそのままセットされていても移動が可能であれば非常にメリットの多い、移動展とかです。ね大作がどんどん来るようなですね、そういう移動展にも対応出来るだろうと。米沢の市民の方々の作品、その中にやはり有名な作品なんかを壁を移動して頂ければ更に活性化するのではないかと。そのような可能性も考えられれば、やはりこの壁面を移動可能なようにして頂くとそのニーズに合った使用の仕方ができるのではないかと。それから今のこの会場の天井の高さは6 mくらいですか。

設計者／ 大体4 mくらいです。

参加者／ 入口の上辺りは3 mですか。

設計者／ 2 mくらいだと思います。

参加者／ ギャラリーは3.3 mと4.5 mにするということでありましてけれども、可能な限り高くして頂くと大変明るいんじゃないかというようにお願いしたいものだなと。あともう一つ、子供の夢を膨らむ、育てる、そういった意味合いからですね、外壁が黒というのはいかがなものかと。寒い米沢で、しかも不景気な世の中で黒い壁が子供に夢を与えられるかと、その辺を御検討してお願いしたいという要望であります。以上です。

設計者／ 体験学習室の使い方でございますけれども、体験学習室をここに配置しているのは、1階に配置をされているこういう会議室的な部屋は体験学習室ともう一つ学習室というのがあります。学習室は北東側の角の文化会館側にあるんですけれども、ここは机を固定されるような机を配置されていますので他の用途に転用するのは難しいだろうと。体験学習室についてはテーブルと椅子を片付ければ展示スペースにもなるということも配慮してこの位置に配置しています。ですから展示室の一つとして使えるような形で扉を付けて一体利用が出来るような、そういった設えにしております。天井高も半分くらい2階の多目的ギャラリーに掛かっていますので、その部分については3 m程度の天井高になりますが、西側の半分くらいにつきましては、ギャラリーと同じく4.5 mの天井高を確保されているというような形になっています。それから天井高につきましては、全体で使っていくとするとですね、まず真ん中の部分が4.5 m確保していると言いましたけれども、東側の両脇にですね出入口がついている部分というのも4.5 mの天井高を確保されているスペースになっています。一般的な美術館とかですね博物館の展示スペースの天井高というのは大体4 mから4.5 mくらい必要だと言われております。今回は市民ギャラリーでございますので、全てをそういうふうにする

るというのはですね逆に天井が高すぎて使いづらいということもございまして、それで3.3mになっています。そういうこともありますので、限られた工事費の中で造るということも当然条件の中に入ってきますので、そういった意味では、最大限天井高は確保しているつもりでございます。外壁の黒につきましては、一番最後に見せましたように木の質感をそのまま使うということも当然視野に入れております。黒塀ということで考えていくというのも一つの考え方としてはあるというふうにも思っています。ただその夢を与えるということで、このパースがですねすごく抽象的に描いていますので、窓から見える風景というのが結構大事なんじゃないかなというふうに思っています。夜になるとこの間からですね奥の段々と覗いてくるような形で光が入ってくるとかですね、そういった状態を私たちは想像しながら作っているんですけども、冷たいとかそういう感じにはならないように考えるつもりですし、それをもう少しちゃんとしっかり展開していきたいと思っています。

参加者／ 埋蔵文化財とかですね古美術の展示会場ではないわけですよ。子供の絵とかですね、或いはいろんなことで夢のある外観にして頂いたらこれは大変素晴らしいなと思ったものでありますので、何とかですね子供たちがあそこに行きたいなとなるような、私は黒ではないと思うんですよ。是非御検討頂きたい。例えばですね、学校とか黒で全部出来ていますか。おかしいなと思います。その辺をもう一度考えて頂きたい。お願いします。

参加者／ 米沢に住んで30年でよそに出たことはないんですけども、三つ質問したいことがあります。一つは、自分は去年若者交流会ということで市役所の方がおいでになって交流会に行きまして意見をいろいろと、30歳前後の方が結構いらしてました。全員から要望があったのは、まず東北一、日本一と言ってもらえるような、どうせするならそういう図書館にしてもらいたいという声が出ました。今日は図面の話なんでそこにしか話しませんが、どうせやるならメディアが取り上げるようなすごいものを造ってくれと要望を出しました。二、三、具体的なことを言ってみると、正直今日見てがっかりしたのは、もっと高くて上が全部ガラス張り、中に芝生があって寝ころがって本が読めるような、そういうちょっと奇抜なものもあってもいいのかなと。三つ目に言おうとした外観の壁なんですけど、まず地味すぎるのと、あと夢を与えられるかというのがまず一点。二つ目が学習スペースなんですけれども、テーブルの一人当たりの幅はいくらですか。それが一つ気になったんで。自分は地元の図書館を一回も使ったことがない人間なんでちょっと失礼なんですけど川西に行って使っているんですよ隣の。というのは、勉強すると言っても、いろいろな勉強をするスペースがあると思うんですね。例えば、設計屋さんみたいに僕も設計屋さんみたいな仕事が良いなあと思って勉強したいときに建築士の勉強をするときに、みんなこぞって川西に行くんです。地元行かないですよ。スペース取れてないです。あと環境が悪いんですよ。静かで向こうの方が環境いいから、そういうちょっと細かいことなんですけど細かいことに手が届いているのが隣の町にあって地元になかったのが二つ目。三つ目

が学習スペースのスペースですね。先ほどの方とも被るんですけども、やはり外観で地元間伐材とかと言っていましたけれども、あと木質って言っていましたけど、そもそも外観パース出来るのであればあの立地の写真も付けてもらいたいですよ。ちょっとすごく綺麗な風景になっていますけど、外観パースの外周りが米沢に30年居ますけど、あそこ歩いて行きましたかシャッター街の所をずっと平日何人の人と擦れ違いました。それで夜、僕どちらかというところには夜しか行かない人なので日中行きませんが、だったら夜行ったときは夜の風景とか、あの周り当てはめて想像してみましたか、自分ならもっと派手にするとか、ちょっと地味すぎるかなとか、あとはその図面に対しての意見なんであれなんですけど、その通りがどういう状況でどういう人があそこを通るかというので入口の場所がそこで良いのかとか、もっともっていろいろな人の意見を聞くべきだと思うんです。まあ立地とか向きがこうとか、いろいろあると思うんですけど、実際の時間帯で実際そこに何人が来るだとか、どういう人が歩いているだとか、ちょっと陽気のいい人が歩く時間帯が多くなれば、そこで子供たちが何かあった場合とか考えると入口の場所がここでいいのかなとか、こっちの通りはそういう人が歩くからこっちだけにしようかなとか、いろいろな人からも意見を聞くべきだと思います。地元の間伐材としての意見ですけど、あと最後に学習とか言うのであれば、もっと自転車とかのスペースを近場で、建物のもっと近場、近くに設けるべきではないかなとぱっと見て感じました。あと戻ってすみませんが、間伐材を木肌そのまま使うっていった場合に、10年後、20年後を考えていくと、まあ目に見えるなあと、そのくすんでいく木がどよんとなっていくのが目に見える。本当は地元の木を使うことはいいことだと思うんです。本来はもっと使ってもらいたいです。木は自分も好きなんですけど外観には賛成できません。色もどちらかというともっと何ですかねカラフルなまあどよんとしない、米沢ってどうしても寒くてみんなこうなる街なんで冬になると。

設計者／ 30代の方たちが集まってというような話があったので、私たちも30代過ぎちゃったのかな、まだ30代後半ですけどもバトンタッチをしようと思ってますけれども、先ほどから外観について地味であるとか、どよんとしているとか話がありましたけれども、例えば皆さんが旅行されると思うんですが、その時に風景としてなんかいいなあとかですね落ち着いたなというふうに思う。そういった場所を想像して頂きたいんですが、それはなんですかねカラフルな場所というよりも、なんか本当に自然に溶け込んでそこにあるべくしてあったような、そういった風景の中に行ったときにすごく快適に感じたりとかするんじゃないかなと思うんですよね。私はそういうふうに考えて設計をしているつもりで、建物は一回造るとですね50年、場合によっては100年、持つものになると1000年ぐらいもつ建物もあるんですが、そういった中で飽きが来ないような、そういった風景の一つになるような、そういったものをなんか造りたいなというふうに思って設計をしているつもりです。とは言ってもですね、例えばサインだとか分的な色彩の使い方によって、今言われたような意味合いというのは造れると思います

ので、それは十分検討していきたいと思いますけれども、それでは30代にボタンタッチをいたします。

設計者／ ぎりぎり30代で今39歳です。来月40歳になってしまうんですけれども、30代に近い世代として、どういうことを御質問にお答えするかということなんです。そのガラス張りだとか、そういうもっと若い感覚がほしいというお話でしょうか。

参加者／ そもそも、もっとおおって言うものなのかなと思っていました。正直、図書館造るって言われたから。国立図書館は僕はあんまり分からないですけれども。内部もカッコいいですよ、吹き抜けから見える雰囲気とかもカッコいいんですけれども、もっと最新のものがあるとか、そういうなのかなと思っていたんですけれども、今日も他の人から聞かないと分からなかったですよ、こういう場があるということも。だから、なんかもっと最新のタッチパネルの図書館になっているとか、そういうなのかなとイメージはしてたんですよ。ただ、やっぱり同じ国立図書館の延長みたいなだったんで、なんか他と違っていいんじゃないですかという意見です。

設計者／ 他と違っていいんじゃないかという意味で言うと、どのくらい今まで他の建物をご覧になったか分かりませんが、大分たくさん建物をご覧になっていて、建物或いは若干建物の歴史的な経緯的なものを勉強して頂けると、この建物は結構最新です。あの外観に木を使うという行為は、先ほど色についての御意見を頂きましたけれども、近代建築と呼ばれる20世紀以降の建築の中では、忘れ去られていた部分が公共建築については特にですね、いろいろな問題とか品質で時間的に永久に長持ちするような、あまり変わっていかないようなそういう思想でずっと建物が造られてきたんですね。ところが、ここ10年くらいでしょうかねエコロジーというような言葉が非常にクローズアップされて、もっと地球環境に対して配慮されたものを求められている時代になってきて、エイジングって言いますけれども、材料が変わっていく様子ですとか、そういうものを肯定的に捉えるような考え方が世界的に受け入れられるような今流れになっているんです。もう一つには、そういう見た目の話だけではなくて、先ほど説明しましたけれども、日本の木をどうしていくんだとか未来に向けてのメッセージですね。そういったことも少し社会的なそういう提案も含めながら検証するというのを私たちは考えてまして、そういう意味で言うと、これはこの絵で一目見みると地味に見えるかもしれませんが、そういう系譜の中で言うと、まず最新と言って差し支えないと思うんです。それからですね、外に張る木もですね薄い木を今張ろうとしているわけではなくて、先ほども御説明させて頂いたんですが、10cmくらいのある厚みのある木を張りたいと思っているんです。そうするとですね、見た目の存在感というのはおそらく圧倒的な質感が出ると思います。それで子供たちに夢をというお話も、再三御意見として今日出ていますけれども、例えばですね、本物の素材とか本物のハードのようなものに小さいうちから触れていくというのは、子供たちに夢を潜在的に育てていくすごく大事な要素だったりするんです

ね。例えば、パリなんか行くとルーブル美術館へ行くと子供たちがぞろぞろいて床に座り込んで先生の話を聞くというようなことがすごく行われていますよね。ですから、建物についても、やはりなるべくその素材感というか、例えば、今経年建築で言うと新素材と呼ばれているものは、時間が経つとぼろぼろになったりですね、長い間使っているとちょっと飽きが来たりとか、古びた感じになったりだとかあると思うんです。けれども、本物の素材を使ってがっちり造っていくと時間が経つにつれてどんどん良くなっていく。それで色があせていくという行為を否定的に捉えられると、そこは価値観の問題なので一概には言えないですけども、否定的に捉えるとそういうふうになってしまうんですが、例えば、京都なんかに行くとお寺を見るといいなあと思いますよね。京都はちょっと違うんじゃないかと思っていますが、奈良なんかですとあれは昔は真っ赤な柱だったりするんですよね。真っ赤なお寺の時がいいのか、今行っていいなと思うのか、そういう木が年を経ていくというのは、そういう価値を生むこともあるんですよ。ですから、そういうこともですね少し視野を広げて見て頂いて、もう一度どんな建物になるだろうかということのを想像して頂くと、私たちはこの建物に結構自信を持っております。その最新じゃないかとかですねということも含めて非常に本を読む環境空間として上品な空間を作れるじゃないというふうに考えておりますので、こういうふうに申し上げておりますけれども、そういういろんなことをもう少し合わせて考えてみて頂けるとどうかなというふうには思います。

設計者／ 少し付け足しますが、この敷地周辺は再三再四、昼夜間問わず歩かせていただいております。夜のこともですね多少勉強して回ったりもしておりますけれども、そういう意味で言うと、ここの場所に例えばガラス張りのこうこうと明かりを灯した夜ですねボリュームが出現すると、果たしてそこが図書館の空間として相応しいかどうかというのは、ちょっと一辺よく考えてみて頂きたいと思います。お酒を飲む場所に行灯が灯るという意味では非常に明るい行灯になるかもしれないですが、その辺のところは難しい話ですけども、敷地を一生懸命歩いたことに関しては毎週打ち合わせに来たりですねしてしますので、数えきれないぐらい伺っておりますので、それを踏まえた上での提案でもあります。

参加者／ 第1回目のプロポーザルを聞かせて頂いたときに、まちの広場との連携と申しますか、そういう形で西側がオープンになるような一体になったというようなお話がございましたけれども、今回それが構造上の問題もあると思うんですが、消えていると。その辺の理由というか、いきさつをお聞かせ頂ければと思うんですが。

設計者／ 前回のプロポーザルと申しますか基本設計のときに御説明させて頂いた案というのは、ある意味ですね、すごく分かりやすいデザインにしていたというふうに思っています。それは、建物の1階のですね戸がガラス張りになっていて、その部分を開け放すとですねまちの広場と一体となるようなすごく視覚的に分かりやすいような作り方になっていたというのは確かに御指摘のとおりでございます。その後、設計を進めていく中で考えたのは、例えば、図書館も1階も大空間

なんですよ。言い方を変えるとすれば体育館の中に本を並べているような、そういったかなりダイナミックな造りになっています。それは1階もそうなんですけれども、そういうふうにしていただ。それをそういう基本設計の案を作りながら2月に説明させて頂いたんですが、その中では皆さんの意見を咀嚼する中で少し変わってきた部分があって、例えば、まちと施設の一体感とか、そこまでダイナミックにしなくても、一体感というのは作れるんじゃないかなと思っています。例えば、図書館であれば間に壁とかですね天井高の違いとか、そういうことがあることによって一体のワンフロアであるんだけど、もう少し奥行きのある空間が出来るんじゃないかなというふうに思ったんです。決してまちと広場の関係を見捨てているわけではなくて、そういった中でより複雑な関係を作ろうということで、こういう提案にしているということです。ダイナミックな造り方ではないんですが、今回東側の壁を開放できるようにすることによって、まち全体のイベントをするときにはですね一体に使えるようなそういった動線はしっかり確保していこうとは考えております。

参加者／ 分かりました。もう一つなんです、ギャラリーを多目的に使えるということで、壁を立てられるような構造と先ほど説明を頂きましたが、部屋ごとに外の光が全部入るような感じではないかなと思っておるんですが、外側に向けたギャラリーになってしまうのではないかなとちょっと心配しております。

設計者／ 最後の説明が少し不足していたと思いますけれども、まちとの関係性を考えたときに、外からですね展示する風景が見えるというのはすごくいいことだなと思っています。ただ使い方によっては、それは邪魔になるということもあるので、この窓の際にはですねレールを入れていまして、ここにパネルを配置することによって閉じた展示室にすることも出来るようにしています。

参加者／ 分かりました。期待いたしております。それからですね先ほどから皆さんから意見があるように、もうちょっと多目的な使い方がないだろうか。これは私の個人的な考えなんです、例えばですね、米沢市というのはCATVが日本でも一番最初に最初なのかどうか分かりませんが、テレトピア構想というような予算を取ってですね非常に早くから導入した市なんです。これはそれこそ日本でも誇れるような今展開をされていて、非常にまちの中といますか、もっともっとそういうことを外に出せるような技術があると私は思っています。出来ればオーロラビジョンのようなものでパネルを隠して展示と同時に市民全体でですねサッカーの応援をしようとか、それからオリンピックを見ようなんていう企画をやるような、とにかく箱はいろいろ出来ると思います。箱を造るんじゃなくて、まちにするにはというようなプラスアルファのことを少し加えて頂きたいなど。予算の問題もいろいろあると思いますが、NCVさんがあるわけですから、その辺予算が掛からない良い方法がないとかですね、NCVさん今日来てないですか。NCVさんがスポンサーになって頂くとかですね、もう少し面白い企画ができるような平面的な話でなくて、これからの若者も入れた提案が出来るようなそういうコーナーを是非加えて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願

ます。非常に大変だと思いますが、がんばって頂きたいと思います。

参加者／ まず市民ギャラリーは、図書館と一緒にあった複合施設が出来るということで大変私はうれしく思っております。今まで戦後60数年間、米沢の公的な市民のためのギャラリーが無かったわけです。ポポロも間借りをして、そこでギャラリーをやってきたということで、最近利用者が低迷しているとの話がありましたが、あれはやはり4階まで上がるのが大変だったことと、冷房、暖房が段々効かなくなってきたということもあって最近伸び悩んでいたということがあるわけですが、とにかく新しいギャラリーが初めて出来るというのは嬉しいことだなというふうに思っています。私は中学校に勤めておりましたけれども、どこの中学校からも自転車に来て、ちょうど真ん中がまちの広場である、そういう意味でも子供たちが自転車で来られる展覧会場だなというふうなことでももちろん図書館も同じでありまして、そういう位置にあるというのはその中心地に文化施設があるというのは大変嬉しいことだなと思っております。細かいことになりますが、移動パネルのものを収蔵する物置がどこにあるのか。ギャラリー事務室西側のいろいろ収蔵する場所なのかということが一つと、やはり体験学習室の壁を外せないとしてもオープンになるような、そういうことが出来ないものなのかなと。それから、その次の展示室の角のところとか中央とかそういったところは柱がないと駄目なわけですが、もう少し壁が点々とある訳ですが、それを外せないものなのかなと思ったりしています。先ほど、いろいろなイベントもそこでやるようなこともありますので、構造上どうなのかなと思ったりしています。ただ、国立図書館とか、国立、県立とかそういう所を見てきた人が、米沢にそういうものを造れと言うのは20何億円では無理だと思いますので、あまり私は余計な希望はいたしません、ぎりぎりのところで良いものを造って頂きたいと思っております。是非早く完成するように、そしてやがてポポロの方も解決すれば、そこに今まで以上の素晴らしい広場が出来るわけですから、そことタイアップしたイベントが出来てギャラリーとの繋がりをもって出来るのではないかという期待をしているところであります。収蔵庫のことと柱を出来るだけ少なくするというような、その辺をお伺いします。

設計者／ パネルの収蔵庫はですね部屋にしないで、全部収納する場合には西北のゾーンにまとめて置いておこうというふうに考えております。ずっと全部なしで出来てですねやればここも展示スペースに変わるということで、デッドスペースでなくなるというそういったメリットもありますし、狭い部屋から出すというのは大変なので、そういった割り切りをもって設計をしています。それから展示室の壁についてももう少し検討させて頂きたいと思えます。ここに壁が入るということは、かなり合理性を持っている話なので、この小さい壁を外していただくか、もう少しまとめていただくかということで、分割されすぎているかなと私も思いますので、もう少し整理をさせて頂きたいというふうに考えております。体験学習室の壁を開けるという話も出ていますけれども、開けるというのはかなり大変な話で、4.5mくらいの天井高がありますので、ここの会場の天井より少し高いぐらい

のパネルを移動するという事は、出来ないことではないんですけども、動かすのが大変ということと、コストが掛かるということと、それだけ大きいものというのは故障しやすいということもあるので、そういった視点を踏まえながらですね考えていきたいと思っています。

設計者／ ちょっと皆さんの理解の助けになればと思って補足させて頂きませうけれども、皆さん図面でご覧になっているので、実際にこれがどのくらいというのがリアルにイメージがつかめていないのではないかなと思うんですけども。例えばですね中央のこの壁とこの壁を区切って見たときに、この広さというのは大体この会場と同じくらいになります。ですから、イベントをやると言ったときに、この壁があるとといったことがどのくらいの障害になるかというのが、具体的にイメージされていておっしゃられているようであれば、それはそういう捉え方で我々はこれから考えませうけれども、この会場と同じくらいのスペースが簡単にとれて、もっと大きいわけですねこちら側まで入れると。かなり巨大なスペースではあるので、それが御理解頂いていないんじゃないかなとちょっと懸念があったんで、補足させて頂きました。

参加者／ 理解しています。

設計者／ 理解していますか。すみません。

参加者／ 最初に若干苦言を申し上げたいと思います。なんで説明会が米沢のこの寒い時期に、しかも平日の夜になったのかなととても残念です。それで、設計されている方は図書館の入口に立って、どういう方がどういう子供たちがどういう利用の仕方に入っているというのを観察されたのでしょうか。この米沢は11月後半から3月の中頃まではどの建物にも「床が滑ります注意してください。」という表示が出ているんです。本当に雪国に住んでいないと、こういう状況というのはなかなか御理解頂けないのではないかなと思います。それが一点です。それから先ほど御発言なされた方がいろいろ図書館を視察されていたというお話でしたけれども、その図書館は子供室その他が全部2階とか何階にある施設をご覧になりましたか。

参加者／ 見てます。2階にもあります。

参加者／ 子供室ですか。いや私は孫もいます。そういう子供たちを連れて行くとき非常に危険なんです。もう少しすれば子供たちだけで行くようになると思います。それも必ず階段かエレベーターを使ってというようなお話でしたけれども、前回も私は図書館は子供室も含めてやっぱり1階の方がいいんだとそういうふうに申し上げました。逆から言うと、立地条件その他についてもまったくあの辺は夜中8時過ぎになりますと、飲み屋街がすぐ近くなんです。環境的にもはっきり私たち同級会をしてもなんであんな所さ建てんなやあってというような声が多々あります。これもやむを得ない事情ならばもう少し利用者の使いやすいような危険でない建物にして頂きたいんです。利用しやすい。それからご覧になっていると思いますけど、この度の地震で近代図書館の本が踊り踊って外へはみ出すんです。そういうふうな東南海地震や、この頃非常に地震が頻発しているとき、子



供たちを2階、しかも私なんかちょうどこの間もお話しましたがけれども前に赤ちゃんをおんぶして幼児の手をつないで重たい本をたくさん持ってそして図書館へ行く人がいるんですよ。それから、足腰の弱ったお年寄りが開館前から図書館前にたたずんでいるんですよ。そういう人にエレベーターを使え階段を登れと言うのは私は酷ではないかと思うんですよ。それになんかギャラリーのような書架を設けるといようなお話ですけれども、吹き抜けでランニングコストが掛かるということは、当然建築屋の方は御存知だと思うんです。というのは、私の知っている米沢市民に旅の設計士が吹き抜けの家を設計してくれました。米沢じゃ吹き抜けの建物なんかとても住めない状態でどうしようって言っているんです。もうそれらを踏まえて、先ほど一番初めの方がコンサートもしたい、そういう多様な利用をするという場合にも下でコンサートというよりは、上でやって頂いたら騒音もしないでしょうし、今の図書館でも私は行きますけれども、夏場に隣の体育館で剣道をやる日は、若干剣道をしているんだなっていう声が聞こえますけれども、本を選ぶとかなんかっていうときには、今の建築なら二重サッシですか、それらを考えれば外の騒音なんかもそんなに気にしないで利用できるんじゃないでしょうか。御存知のように、先ほどから低迷しているというギャラリーの利用なんですけれども、私もいろんなサークルに入って展示もしています。それらのお友達なんかにこれが2階3階だったら不便と聞くと、そんなこと全然不便じゃないよと、エレベーターと搬入口さえあれば俺たちは会場があればいいんだと、1階でなくたっていいんだよという声があるんです。なんかその辺ももう少し深く考えて頂けないものかなと。まもなく私ももう70過ぎてますから足腰弱くなります。それがエレベーターと階段を使わなきゃ行けないような図書館なんて遠慮しちゃいますよ。

設計者／ 図書館が2階にあってギャラリーが1階にあるということは受け入れられないというような御意見だと思うんですが、メリット、デメリット両方あると思うんです。例えばですね、敷地がもっと広くて両方を1階に配置を出来るのであれば、多分解決する話だと思うんですが、今回の場合は、どちらかを1階に配置をする、どちらかを2階に配置をするということを考えないといけないという、そういった条件になってくると思うんです。私どもも悩みましたが、中心市街地に造るっていうことの意義、今は周りが飲み屋街で文化施設が出来る場所じゃないというふうにおっしゃられましたが、先ほどのまちの広場のすぐ向かいのホテルが入っているビルは1階にはまちかど美術館といいますかそういうアトリエみたいな所があって、そこに人が集まったりとか、それから、そこからもう少し東側に行った所にも皆さんが集まっていて、そこにちょっとした本なんかも置いてあったりとかしてですね皆さんが集まれる場所があったりだとかしているのです、そういうたくさん人が集まっている場所だなと。確かに飲み屋も多いんですけど、そんなにひどい所というふうには思いませんでした。敷地を選ぶのは私どもの役割ではないのでここまですておきたいと思うんですが、そういった中でまちとの関係だとか、二つ造ってですね図書館の方が圧倒的に利用者は多いんじゃない

かなとは思っていますけれども、それを逆にちょっと不便かもしれませんが2階に配置することによって、市民ギャラリーで皆さんいろいろなものを作られて展示をしているというのを見たことがあるんですけども、それだけのもったエネルギーを感じられるような形になるというのもすごく大事なことです。それから、図書館を1階に配置すると結局一層では入らないので二層に分かれるということで、子供連れで来られて、子供の本を探すついでにちょっと料理の本を見ようかというふうにしたときに、そこで上下に移動するとかです。二層に分かれていけば平日でも職員の配置は多くの人をカウンターに配置をしなければいけないとかです。そういったことも、それからワンフロアの図書館になっていて、そこに多くのたくさんの本があるというのがすごく大事じゃないかなというふうに思ったんです。それは、この前も申し上げたかもしれないんですけども、大分前に千葉県の市川という所に図書館を造ったことがあるんですが、その時はワンフロアに20万冊の開架スペースということで造ったんです。今ではそんなに目新しいことではないんですが、その当時はかなり新しいということで、そこに行くとかたくさん本があるということを感じられるとですね、なんかたくさん人がそこに吸い寄せられるように集まって来るんです。千葉県の市川なんですけども東京23区を越えて三鷹の方からわざわざ越えて来たりとか、房総半島の先の木更津の方からわざわざその図書館に来たりだとか、かなりたくさんの利用者が幅広い所から来てくれるみたいなこともありましたし、それに隣接している商店街とかスーパーとかそういうお店があったんですけども、売上げが二割ぐらい伸びたとかです。そういったこともありました。そういったことを考えた中でワンフロアにするというのは、本の魅力というものを体験できるような図書館にするというのは、まちの中心に造るということも踏まえてですね、すごく大事じゃないかなというふうに考えまして、プロポーザルで提案させて頂いたんですが、そういう中で評価をされているということもございますので、今こういう形で進んでおります。答えになっていないかもしれませんが

参加者／ 身障者の方も来ていらっしゃるんですが、入口でお会いしまして、今の図書館も使いにくいんだ。本当にいい図書館を造ってもらいたいんだ。というお話をしながら来たんです。そういう方の御意見も是非考えて頂きたいと思います。

参加者／ 私が最後ですか。私が最後になるのはいかがなものかと思います。これで終わりになってしまって、他に御意見がおありになるのにここで打ち切ってしまうと、市民の意見を採り入れられない図書館というふうなレッテルが貼られる可能性はないとはいえないと思います。そのことを踏まえて、これで意見が足りなったらば、もう一度、もう一度って何回も開催されるべきだと思います。そのぐらい大事なことだと思います。それで、平面について申し上げます。先ほど1階がギャラリーじゃないと駄目だというふうなお話がありましたけれども、私は1階に図書館があるべきだと思います。それから、理由はいろいろありますけれども、やっぱりたくさんの方が集まるっていうふうなこと、集客というふうなこと

から言っても上と下が反対の方がいいのかなというふうに思います。それから、平面について図書館の中で申し上げますと、どこぞの大学とかどこぞの図書館とかのように高く壁一面の蔵書っていうふうなお話がありましたけれども、何のために高くするのかという気がするんです、これほど。じゃあ高い所まである本は誰が目視で何がどういうふうな本が並んであるのか分かって、誰がその本を自分の手元に持ってきてくれるのか。どういうふうに調べられることができるのか。ただいたずらに蔵書が多いただけじゃないのか。それはパフォーマンスだけではないのかとかそういう気がします。本というのは背表紙を見たり装丁を見たり、全体的なエリアの全体を眺めて、自分で手に取って見て開いてみて、じゃあ読んでみようかということになってお借りするなり閲覧するなりするもんだと思うんですよ。それを外から来る人が、わぁこんなに高い所まで本があるからすごいなあっていうふうなところのパフォーマンスだけでいらっしゃる、本を見にいらっしゃるのだとすれば図書館じゃないですよ。そこのところは、本当に図書館を使いたいと思っていらっしゃる方のためにアイデアを考えるのか、はったりで見かけで人を集めるために造る図書館なのか、どういった人たちの目線、高さ、幅、歩幅、腰の曲がり具合から、身長からそういう所まで踏まえてこの計画をなされたのか、そこをお聞きしたいです。

設計者／ 見かけ倒しということを言われていますけれども、2階レベルに配置をしている本棚と壁面書庫と言っている所に配置をしている本棚というのは性格が違っています。いわゆる開架スペース、皆さんが開架をしている本というのは全部2階レベルに配置をされています。それ以外の本であまり使わなくなった本、例えば年に1回だとかそのぐらいしか使われなくなった本というのは、一般的には保存書庫という閉架書庫という皆さんから見えない所に保管をされているんですけども、その部分を壁面書架という形で配置をしているということで造っています。見かけ倒しということではなくて、今例えば、いろいろなアイパッドにしろ本をネットで取れるというような時代になってきています。そういう時に、図書館というのがどういう意味を持っているのかというと、図書館というのは今の歴史だとか知恵だとか、そういうものを共有していることが何か感じられるというような、わざわざ建物を造るわけですから、そういうことが大事なんだというふうに思っています。そういった意味で、中に閉鎖されているものを表に出すということで、そこで出来る本に囲まれているような感じというのは歴史を共有するとかですねそういったことに思えたんです。それがとても大事なことなんじゃないかなと考えています。先ほど答えを出してませんでしたけれども、吹き抜けでランニングコストが掛かるという意味においては、2階の床レベルからこのぐらいまでのレベルを空調をするというシステムを採用しています。そういったことをすれば、吹き抜けであってもですね、狭い部屋でなくてもまったくランニングコストが掛かるということはないです。逆に木をですね外側に張って、かなり断熱の高い建物を造るというふうに造っていますので、一般的な素材よりも少ないコストで運営はできるような、そういった仕組みにしております。

参加者／ 先ほど言い忘れたものですからすみません。今の御説明の中で、使われなくなった利用の少なくなった本を中心に、しまうのではなくて見える所に置きたいというふうなお話でありました。そうだとするならば、すぐに取りれる所があればそれは便利です。ただ先ほどのお話のように最近地震が多いです。そういったことに対して高い所から本が落ちてくるという怖さって多分あると思うんですね。そういうようなことについて、どういうふうな手立てを講じていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

設計者／ いろいろなやり方があると思っていて、実施設計の中で検討していきたいと思うんですけれども、例えばですね、棚が地震が来た時に後ろに傾いて本が落下しないようになるとかですね、そういったシステムもありますし、ギャラリーの幅をある程度取っておいて本が落ちたとしても下に落ちないような手すりを付けておくというようなやり方もあると思います。本が落ちると危険だというのは、まさにその通りでございますので、それに対しては万全の対策を取るつもりでおります。

事務局／ 平面プランに関する御質問、御意見につきましては、この後もホームページ、メール等でお受けいたします。

参加者／ 最後に質問とか考えがございます。最初にそれはないよと言われるかもしれませんが、この場所に図書館、ギャラリーは不向きだと思います。こうなったからとかじゃなくて、とても人が集まる人が呼べるとか言うんだったら、どうしても少し駐車場が便利で楽なものが造れないのか。年寄りや年寄りだけではないですけれども、米沢の交通機関、公共交通機関というのはバス、タクシーそれがこちらにバスが停まれない、マイクロバスでさえ停まれまいということは、この前の検討会のときも言ったんですけれども、それが全然改善なっていません。新しい図書館が出来れば学校行事とか学年行事、クラス行事でたくさんの子供たちが来ると思うんです。そういう人たちはどこで車を降りるんですか。それから他の所から市川の図書館に房総半島から来られたといっても何で私たちの場合はどこから来てくださいと言ってどこに車をバスを停めてもらえるんでしょうか。それからあと駐車スペース150台立体駐車場とありますが、文化会館を無視しているんじゃないでしょうか。そこの利用者と一緒にだぶった場合どうするのでしょうか。あと、図書館とギャラリーもそうですけれどもトイレの数ですね。子供たちが学校とかクラスで来たときにトイレ少なくありませんか。お年寄りも幼児が図書館に来て幼児のトイレまで何mあるんですか。子供は我慢しなさいと言っても聞きませんから。以前言いましたけれども太陽光発電のこと全然頭に入っていないようです。黒いデザインだったのでてっきりこれはやったしめたと思ったんですが残念でした。それから駐車スペースはいいんですけれども、これから冬になると子供たちが図書館へ行くにも送り迎えが必要になります。いちいち駐車場で待っているからという大変です。どこに停めたか分からない。図書館のどこの出口、入口で待っているということだったら子供たちも安心して来れるでしょうけど、酔っ払いのおじちゃんとかお兄さんたちのいる所にあなた方の子供さ

んや孫さんを出せますか。閉館したからといって図書館が終わったからといってそういうことをお聞きしたいです。

設計者／ トイレの数と太陽光についてお答えさせていただきますが、トイレは、例えばこういう会議とかですねこういうふうに皆さんが揃って1時間2時間というふうに集中するというそういうときはたくさんのトイレの数が必要になりますが、いつでも自由に行けるようなそういった状況の施設では、そんなに数が必要じゃないというふうになってます。そういった意味で十分なトイレの数は確保させて頂いております。それから太陽光発電につきましては、説明から漏れていますが、付ける方向で検討しています。どういう方法でどういう位置に付けようかというようなことを打ち合わせをしているところでございます。

事務局／ バスでございますけれども、今子供たちのことをおっしゃって頂いたんですが、現状でも今文化会館を御利用頂くときにバスの駐車スペースはございませんので、北側の道路等を使って利用して頂いております。施設西側に文化会館と共有でございますけれども、一応大型バスが入れるスペースを有しておりますので、乗降につきましては、そちらを御利用可能ということになります。それから駐車場なんですけど、先ほど無料なのかというお話もございましたけれども、私どもは新しい図書館、ギャラリーと文化会館は全て同じように考えたいと思っています。ですから、利用料金にしましても文化会館につきましても一定程度無料で駐車出来るように考えております。

参加者／ 個人の送迎用の車はどこに置くんでしょうか。いちいちやっぱり立体駐車場へ入って子供を迎えに行くんですか。ちょっとだけでも駐停車出来るようなスペースがないんでしょうか。例えば塾の前を通りますと、親が迎えにいらしてますよね。帰る時間にそういうスペースが取れないかどうか。9時だから帰れと言われても四方八方飲み屋の所に子供を出せますかということなんです。

事務局／ おそらく南側の道路、平和通りですね、そちら側の建物側に一方通行でございますので、右側のドアを使うこととなりますけれども、少しへこんだ部分がございますのでそちらの方とか、バス停側の方とかもその時間帯になるとバスもいなくなりますので、そういった所を御利用していただけるのかなというふうに思っております。

事務局／ 大変多くの御質問、御意見を頂きまして本当にありがとうございました。本日頂きました内容につきましては、本日の会議録をホームページ上で、若干お時間を頂きたいと思っておりますけれども公開させて頂きたいと思っております。

参加者／ ホームページ見られません。

参加者／ この中でパソコンのホームページ機能を持っていらっしやらない家庭もあるわけですよ。そういう方たちのこと考えて、どういうふうに広報していったらいいかというふうに知らせていって御意見を集めていくのかということも検討されて、そういう方たちに対しても差別のないように、市民ですから皆さん、よろしく願いいたします。

参加者／ それから、市の広報にアンケートを募集されていましたが、その結果に

ついては何らどこにも報告がないんです。みんなが市民がどんな意見を持っていたのかなって非常に興味を持つものですが、そういう片手落ちというのはないのでしょうか。それからもう一つ、設計者の方に言いますが、本にいっぱい囲まれているというのは、非常に新鮮な本がたくさんあればそういう認識はあるんですけれども、一旦書庫に入った古い本を並べても皆さんの興味は湧きません。

参加者／ それはナンセンスです。

事務局／ よろしいでしょうか。ただ今頂きました御意見につきましては、基本設計をまとめた段階でまた市報で御報告させていただきますので、御理解くださいますようお願いいたします。なお、本日は大変多くの御意見を頂きましたが本当にありがとうございました。これをもちましてこの会を閉じさせていただきます。本当にありがとうございました。